

令和7年度 外国人児童生徒等 教育充実のための研究協議会



10月20日(月)

太田市立九合小学校

『日本語指導が必要な児童生徒に対する 支援のための校内連携』

～ 全教職員で取り組む指導体制作りを通して ～

太田市



国際教室



1 九合小学校の紹介

R7. 9.1 現在

- 開校 152年
- 学級数 22学級
- シンボルツリー 梅檀(せんだん)
- 九合小学校 教職員 52名
- 国際教室 職員・日本語教室担当教諭・・・4名(育短及び育短補を含む)
 - ・バイリンガル教員・・・1名(ポルトガル語)
 - ・日本語指導助手・・・・・・4名(タガログ及び英語、
スペイン語、ベトナム語、中国語)



九合小学校の児童数

(R7.9.1現在)

学年	児童数	国際教室 在籍児童数
1年	92	9
2年	76	9
3年	91	16
4年	83	15
5年	79	15
6年	71	14
合計	492	78

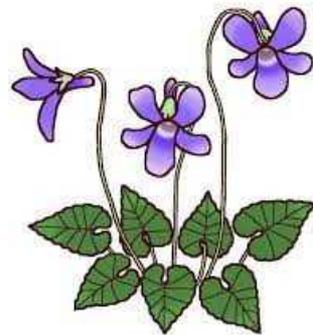
- ・ 全校児童数の約2割が外国にルーツをもつ児童である。
(国際教室への入級を希望しない家庭もある。)
- ・ 14か国の国籍の児童が在籍している。
- ・ すべての学級に、外国にルーツをもつ児童が在籍している。



2 全教職員で取り組む校内連携

(1) 管理職の経営方針を受け、指導を進める。

今年度の学校経営方針の努力点の中に明記



- 異なる学力層の児童のニーズに対応した「より特化した集中的な指導」(国際教室の放課後補習等)を重視する。
- 外国籍児童、外国にルーツをもつ児童が将来に期待をもって学校生活を送れるよう「特別な教育課程」の活用を促進し、国際教室の充実を図る。
- 「個別の指導計画」に基づく指導・支援を充実させ、日本語能力の実態に応じた適切な指導・支援を行う。また教育相談や保護者会を適宜実施し、日本の教育制度について理解してもらう。

(2) 国際教室の指導について

①国際教室職員の 担当内容の明確化、 文書化

- ・ 4月当初に、職員の
担当内容をはっきりと
決め、文書化して周知
して取り組んでいる。



1	国際教室 担当教諭 (主任)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際教室の運営 ・教科を通しての日本語指導（国語・算数） ・教科書を活用しながら日本語（学習言語）の習得をめざす指導を行う。 ・バイリンガル教員、日本語指導助手と連携して保護者対応のコーディネートを行う。 ・各学級の週予定から、担任と連携し、入り込み指導や取り出し指導の一週間の支援予定を作成し、バイリンガル教員、日本語指導助手との連携を図る。 ・名簿の管理 ・個別の指導計画作成、修正をする。 ・国際教室から発信する通知作成（放課後補習、サマースクール、国際懇談会等） ・国際教室データの管理
2	国際教室 担当教諭 育児短時間	<ul style="list-style-type: none"> ・教科を通しての日本語指導 ・教科書を活用しながら日本語（学習言語）の習得をめざす指導を行う。 ・国際教室通信を発行し、家庭への啓発を行う。 ・「翻訳してほしい通知」各種通信翻訳のコーディネート及び管理 ・放課後補習の予定表、出席簿、席巻表、課題のとりまとめ ・サマースクールの計画、運営 ・国際教室から発信する通知作成（放課後補習、サマースクール、国際懇談会等）：主任の補助・支援
3	国際教室 担当教諭 育児短時間 補助	<ul style="list-style-type: none"> ・教科を通しての日本語指導 ・教科書を活用しながら日本語（学習言語）の習得をめざす指導を行う。 ・「翻訳してほしい通知」各種通信翻訳のコーディネート及び管理：亀山教諭の支援 ・放課後補習：亀山教諭と連携し実施をする。 ・国語のふりがな付き教材の準備、配布：他教諭と連携協力 ・通知表担任所見（総合、道徳、係など）の翻訳調整、国際教室 所見の翻訳調整：他教諭と連携協力

4	国際教室 担当教諭	<ul style="list-style-type: none"> ・教科を通しての日本語指導 ・教科書を活用しながら日本語（学習言語）の習得をめざす指導を行う。 ・インフォルマ配布 ・国語のふりがな付き教材の準備、配布：青木教諭と連携協力 ・通知表担任所見（総合、道徳、係など）の翻訳調整、国際教室 所見の翻訳調整：青木教諭と連携協力
5	バイリン ガル教諭	<ul style="list-style-type: none"> ・教科を通しての日本語指導、通訳、翻訳、生活適応相談を行う。 ・日本語の習得が十分でない児童への取り出し指導（初期指導を含む）を行う。 ・ポルトガル語の翻訳、通訳をしていく。 ・日本語指導員との連絡調整を行う。翻訳関係については国際教室担当教諭等と連携をとりながら行う。 ・翻訳した文書を配布用ファイルに入れる。
6	日本語指 導員	<ul style="list-style-type: none"> ・英語・タガログ語の文書翻訳、通訳を行う。 ・入り込み指導支援を中心にした支援、通訳、翻訳、生活適応相談を行う。 ・勤務日の制限があるため、国際教室担当教諭やバイリンガル教員と連携し必要な報告連絡を行う。 ・翻訳した文書を配布用ファイルに入れる。
7	日本語指 導員	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文書翻訳、通訳を行う。 ・入り込み指導支援を中心にした支援、通訳、翻訳生活適応相談を行う。 ・勤務日の制限があるため、国際教室担当教諭やバイリンガル教員と連携し、必要な報告連絡を行う。 ・翻訳した文書を配布用ファイルに入れる。
8	日本語指 導員	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム語の文書翻訳、通訳を行う。 ・入り込み指導支援を中心にした支援、通訳、翻訳、生活適応相談を行う。 ・勤務日の制限があるため、国際教室担当教諭やバイリンガル教員と連携し、必要な報告連絡を行う。 ・翻訳した文書を配布用ファイルに入れる。
9	日本語指 導員	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語の文書翻訳、通訳を行う。 ・入り込み指導支援を中心にした支援、通訳、翻訳生活適応相談を行う。 ・勤務日の制限があるため、国際教室担当教諭やバイリンガル教員と連携し、必要な報告連絡を行う。 ・翻訳した文書を配布用ファイルに入れる。

②予定表の作成

- ・ 学校生活は、行事も多く、流動的でもあるので、計画的に取り出し、入り込み、放課後補習等を実施するため、担任から毎週、週案を受け取り、国際教室予定表を作成し、指導に当たっている。
- ・ 火曜日の4時間目を国際教室の打合せ時間とし、前週の児童の様子などを報告し合ったり、今後の予定などの確認をしている。

(3) 学級担任との連携

①通訳

学校で定期的に行う教育相談や連絡等のほかにも、外国籍児童の保護者は、文化の違いなどから困りごとなども多くある。保護者と日常的に連絡をとり、学年だよりやお便り等、通知表等の翻訳だけでなく、日頃の保護者や担任、学校生活に関わる詳しい説明を行ったり、相談に乗ったりしている。

②翻訳

学校からの連絡事項等も翻訳している。特に、保健関係の翻訳は大切にしている。個人的な連絡を重視し、連絡帳等に書くことも多い。保護者の利便性を考え、スクリレの活用も始めている。



③児童の学習状況の共有

児童の学習状況や教材の進度などについて、また効果的な指導についても、週案作成時に連絡を取り合っている。特に取り出し児童の状況については、詳しく知らせ合うようにしている。

④児童の家庭生活の状況の共有

外国籍児童の家庭は、急な転居や転職など変化が多い場合もある。担任との連絡を密にして指導を進めている。また文化や考え方の違いなどからトラブルになることも多い。通訳の先生と協力しながら正しい情報を共有し、早めの対応を心がけている。

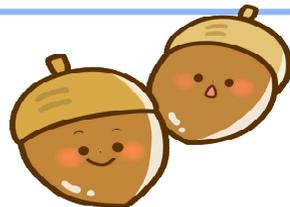
(4) 保護者との連携

① 通訳および翻訳

学級担任との連絡をスムーズに理解できるよう、また児童が学習に主体的に取り組み、日常の生活の困りごとを減らせるよう、できる範囲でなるべく密に連絡を取り合っている。四月初めに「国際教室通信」を発行し、国際教室担当や日本語指導担当について知らせている。

② 情報交換

放課後補習やサマースクールの時、低学年児童の保護者には、送迎をお願いしている。その機会をコミュニケーションをとったり、情報交換をしたりする場、保護者の意見を聞く場として活用している。



③ 保護者会実施

R5年度には11月に、R6年度には1月に国際教室の懇談会を実施した。学校での児童の様子を紹介したり、学校からのお願いや今後の進路の状況について知らせたり、保護者からの質問を伺ったりしてきた。

今年度は、3学期に実施する予定。

「国際教室通信」

こく さい きょう じつ つう しん 国際教室通信

九谷小学校 2025.4

学校の新しい1年が始まり、2週間が過ぎました。国際教室では、今年度も外国ルーツをもつ子供たちの学校生活や学習の支援をしていきます。今年度、九谷小の子供たちのルーツは14カ国に及びます。一人一人の子供たちが楽しく健やかに成長できるよう支援します。どうぞよろしくお願ひいたします。

先生の紹介

今年度の国際教室を担当する先生は下記の9名です。スペイン語、タガログ語、英語、ベトナム語、中国語の先生とお話したい場合は、曜日をご希望の上、16:00までにお電話ください。



①から

- ① おおしま ひろみ(国際教室担当教員)
- ② しみず きよし(国際教室担当教員)
- ③ かめやま まい(国際教室担当教員)
- ④ あおさ きょうこ(国際教室担当教員)
- ⑤ さかもち ひろみ(バイリンガル教員)月・火・水・金より白に学校にきます。
- ⑥ モトムラ シンシア(日本語指導補助士-タガログ語-英語)-木・金より白に学校にきます。
- ⑦ さかい スナナ(日本語指導補助士-スペイン語)-水より白に学校にきます。
- ⑧ グエン ロアン(日本語指導補助士-ベトナム語)月より白に学校にきます。
- ⑨ やさき かなみ(日本語指導補助士-中国語)火より白に学校にきます。

<放課後補習について>



4月23日(水)から、令和7年度の放課後補習が始まります。ゴールデンスピーカーや保護者会議などのため、実施しない日もありますが、子供たちの学習習慣作りと、教室の学習の確保のために、習題と国語のプリントに取り組みます。また、今年度も、子供たちが書く「方」を伸ばすために、毎週「短作文」を書いてから宿題をすることにします。放課後補習は、各学年週2回実施します。実施日や終了時間を予定表でご確認ください。1、2年生は、下校時の安全のため、保護者のお迎えをお願いします。(学習やプララツへいく児童は、終了まで)充実した時間になるよう支援をしていきます。

スクリーンについて

九谷小学校では、外国ルーツをもつ子供たちが簡単に学校生活を営むよう、「各学年通信」に学校からの通知などを翻訳して配信しています。以前、「日本語のものと一緒にしてほしい」とのご要望をいただき、対応できるように心がけておりましたが、曜日になってしまうことも多々ありますことをご了解ください。



子供たちのランドセルの中を見ると、学校からのお便りがそのまま入っていることがあります。大事なお知らせが、保護者の手に届いていないことが大変残念です。子供たちが自分からお便りを出せるようになるまで、毎日、学校からのお便りが届くかどうかをお子さんに聞いてお確かめください。

スクリーンは翻訳アプリで読んでください

現在、スクリーンは翻訳をしています。しかし、スクリーンは言葉で大まかな意味だけで、日本語のメール文を翻訳アプリ等で読み取った状態にすぎないため、日本語のメール文から読み取ることができず、内容を正確に読んでください。よく分からないときには、学校にお電話をおかけください。

保護者の方へおねがい

- 学校を休むときは、「欠席届」が電話(Web)のいずれかでのご連絡ください。連絡は、午前8:20までに必ずご連絡します。
- 学校で学んだことをその日のうちに家庭で復習するなど学習習慣を養うようにしてください。「復習したことをもう一度することで、身に付いていきます。また、学校を休むことが多くと復習が身に付きません。具合が悪いときには無理をさせないでください。家の様子などで休まないようにしていただくとよいと思います。

○年○組○○○○番(仮)です。
お名、Kikanochi Hase.



- 子供たちの学力を向上させる魔法の学習が「言語」です。毎日言語の宿題が出ますので、ご家庭でお子さんの言語を聴いてください。「言語カード」に必要なことを記入して、学校に持たせてください。お父さんやお母さんの言葉で、子供たちの読む方がぐんぐん伸びます。
- 高学年では、国語の教科書だけでなく、社会や理科の教科書も読むと、予習や復習の役に立ちます。
- 引っ越しをする場合、転居と一緒に所属する場合には、決まり次第で学校へ連絡をしてください。

(5) 国際担当とバイリンガル教員・日本語指導員との連携

①児童の学習

状況の共有の仕方

国際教室打合せ①（4／8）

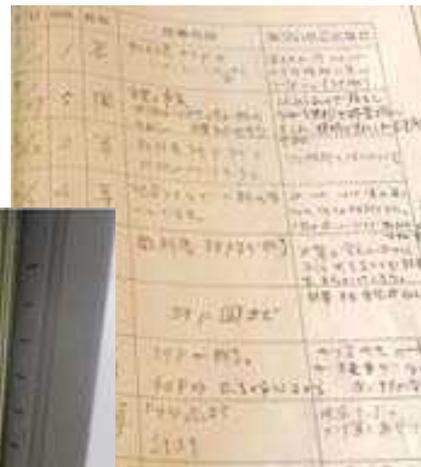
- 1 今後の支援について
（学年分けなど）
通知表分担など
- 2 放課後補習について
4月23日より開始
- 3 児童の様子について
 - ・ 転入生
 - ・ 進入児
- 4 その他

指導計画・支援計画

左の図のような打合せノートを作り、毎週火曜日の4時間目に打ち合わせを行い、児童の様子等について報告、連絡、相談を行っている。



②ファイルの活用



上の図のようなファイルを作り、取り出し学習の後、学習内容等を記録し、次時の指導者に引き継いでいる。

(6) 校外との連携



① プレクラス、 教育研究所

太田市では、日本語が話せない児童が学校に通うまでに、40日間プレクラスに通える制度がある。プレクラスに通った児童は、日本語が全く分からないまま学校に来た児童と比べ不安感が少なく、学習や生活だけでなく学校での集団生活をスムーズに過ごせる事例が多い。

また、本校職員が在籍している太田市の教育研究所の外国人児童生徒学習支援班の研究成果を、校内に知らせ、指導に生かしている。

② 他小学校

特に他校からの転入生の場合、前在籍校からの連絡によって、くわしい家庭状況や成育歴が分かるので、留意事項が分かり、スムーズに受け入れることができる。なるべく連絡を取り合うよう心掛けている。

③ 東中

R6年度は2月21日に国際教室担当教員とバイリンガル教員が、6年生児童や保護者と一緒に東中に行き、校舎や掲示物を見学し、不安なことを聞き、中学校の先生に伝えたり、通訳をしたりして、中学入学の心の準備をした。

1月23日には、九合小で保護者懇談会を行い、小学校卒業後の進路や将来について話し合った。

また、2月6日の東中入学児童保護者説明会にも、国際教室担当教員とバイリンガル教員が一緒に参加し、通訳や相談に応じた。

プレクラスで学ぶ様子



3 国際教室の取組

(1) 指導方針

- 学習への意識を高め、主体的に学べる児童を育てる。
- 九合小の一員(学級の一員、学年の一員、学校の一員)であるという意識を育てる。
- 児童生徒や保護者が安心して学べるよう、状況を正しく受け入れながら支援し、自尊感情を育てる。



(2) 初期指導が必要な児童の指導

- ① 日本語の理解が全くできない児童は、初期は、国語、算数、社会の取り出しをする。
- ② 「みえこさんの日本語」や「学校生活のための日本語 やまのぼり」などを使い、系統的に日本語の読み書き、話す、聞くの指導をする。(取り出しの指導時間の上限を決めておく。)
- ③ 基本的指導の学習過程を統一して指導する。指導、練習、テストを繰り返し、達成感を持てるようにする。
- ④ 他の教科は教室での授業を受け、教室の一員としての自覚を持たせ、日本語をたくさん浴びて日本語を身近に感じられるようにする。
- ⑤ 母語を大切にし、日本語指導員との学習を大切にする。
- ⑥ ポケトークやクロームブック等を活用する。



(2) 初期指導が必要な児童の指導

日本語の理解が全くできない児童

学校生活に必要な言葉、あいさつ、学校の約束などの学習

日本語の読み書き、聞く話すの学習

※「みえこさんの日本語」や「学校生活のための日本語 やまのぼり」などを使う。

※取り出しの指導時間の上限を決めておく。

国・算・社の取り出しを行う。

※基本的指導の学習過程を統一して指導する。指導、練習、テストを繰り返し、達成感を持てるようにする。

※他の教科は教室での授業を受け、教室の一員としての自覚を持たせ、日本語をたくさん浴びて日本語を身近に感じられるようにする。

※母語を大切にし、日本語指導員との学習を大切にする。

※ポケットークやクロームブック等を活用する。



(3) 入り込みを中心とした指導

- 1年生の1学期は、学級で学習の規律を学び、児童の実態に応じて指導する。
- 2年生以上は、児童の実態に応じて支援時数を決める。支援時数は、担任との話し合いをもとに、学期ごとに見直す。
- 「やさしい日本語」をこころがけ、何につまずいているかを把握し、担任と共通理解して支援するようにする。
- 持ち物や態度など、児童の授業に参加する姿勢を確認し、支援する。
- 分からなくても「自分から聞ける自主性を育てる。」よう、近寄りすぎないよう、声をかけすぎないよう気を付ける。
- 他の日本人の児童も支援する。



(4) 取り出し指導

- 児童の安心のため、取り出しをする時は、所属学級の進度に合わせて指導する。
- できるだけ先行授業を心掛けるが、基礎や未習内容も教える。
- 担任と連携を大切にし、学習内容だけでなく、前時までの児童の様子なども確認して指導する。
- 担任と相談し、児童の状況にあった日本語指導をする。



(5) 放課後補習について



- 4月初めに、国際教室の児童に参加募集の紙を配布する。
- 各学年週2回とする。「書くこと」の苦手解消のため、2年生以上は、毎回テーマを決め、初めに短作文を書く。
- その日の宿題に取り組み、終わった児童は補充プリントに取り組む。
- 指導者は、児童が何ができて、何ができないかを把握し、支援に生かす。また、把握した内容を〇〇などを通して、教員間で共有する。

	火	水	木	金
6校時 (2:50~3:35)	1年、2年	3年	1年、2年	
放課後 (3:45~4:25)	4年、6年	4年、5年		3年、5年、 6年

放課後補習の約束事も決めています

ほうかごほしゅうの やくそく

- ・じゅんばん

- 1 さんすうの しゅくだい

- 2 こくごの しゅくだい

- 3 こくさいの プリント

- ・おしゃべりを しない

- ・であるきを しない

- ・いすに きちんと すわる

<やくそくをまもって がんばろう>



(6) サマースクールについて

- ・日本の夏休みの宿題に自分が取り組んだ経験がないため子供たちへの指導が困難な外国籍の児童の保護者からの要望で始まった。
- ・7月初めに希望をとり、夏休み中4日間程度宿題を中心に学習した。



先生の話聞く様子

- ・今年は右のような予定で実施した。



	1～3年 8:50～10:20	4～6年 (10:30～11:50)
7月22日	作文	書写(4年)、作文
23日	書写(3年)、ポスター	書写(5年)、ポスター
29日	ポスター	書写(6年)、ポスター
30日	ポスター、絵日記、 ドリルなど	ポスター、ドリル 「ブラジル、どんな国」 清水先生

4 成果

- ・ 外国籍の児童が学級で孤立していない。学級内での外国籍児童への偏見が少ない。日本人の児童の多文化共生の素地ができてきている。
- ・ 校内での連携が進み、予定通りに、入り込みや取り出し指導ができています。
- ・ 九合小の学級の一員という意識が高まり、少しずつ学力や学習意欲が高まってきている。
- ・ 母語と日本語による指導によって、心の安定が図れ、安心して国際教室にも通ってきている児童が多い。欠席者が少ない。
- ・ トラブルが起こった時、担任と通訳をしてくれる先生との協力体制ができていますので、すばやく対応し、正しく聞き取りなどを行っている。そのため初期対応が早くでき、生徒指導の問題なども、比較的大きくならない。

